

知的財産戦略ビジョン (サマリー)

2018年6月12日

内閣府知的財産戦略推進事務局

1. 新たな知財戦略ビジョン策定の背景

2003年 知的財産基本法に基づく知的財産戦略本部 設置

→ 毎年の「知的財産推進計画」に基づく政府一体の知財戦略の推進

「知的創造サイクル」の基盤確立による「**知財立国**」の推進

- 特許審査体制の強化(世界最速審査達成等)
- 紛争処理機能の強化(知財高裁設立等)
- 営業秘密の保護強化
- 中小・ベンチャー企業への知財活用支援強化
- 国際標準化戦略の強化
- 産学連携機能の強化
- 模倣品・海賊版対策の強化

2013年 「知的財産政策ビジョン」策定

2012年 クールジャパン担当大臣設置

近年進む大きな社会変革

イノベーションの変質(供給主導から需要主導へ)

人々の価値観の変化(モノよりコト、共感、シェア)

データ、人工知能、IoT等の技術的進展

少子高齢化、環境エネルギー等の社会課題

国際情勢の変化(米中の存在感拡大、グローバルなプラットフォーム企業の台頭)

Society5.0実現

SDGs

✓ 知的財産のあり方は「独占」「交換」「保護」から「共有」による利活用拡大へ

✓ 毎年の推進計画の見直しのみではなく、中長期のビジョンを政府全体で共有し、将来社会に必要なシステム設計を行う必要

2025～2030年頃を見据えた新たな知財戦略ビジョンの検討

→「知的財産推進計画」による実行 1

2. 「知的財産戦略ビジョン」の構成

現在

2025

ターゲット未来

2030

1. 将来につながる現在の環境変化や兆候

- ・供給サイド経済から需要サイド経済へ
- ・技術進展（IoT、ビッグデータ、人工知能など）
- ・情報発信やモノ・コンテンツづくりの主体の広がり
- ・シェアリングエコノミー、「コト消費」や「共感」（いいね！）
- ・少子高齢化、人生100年時代

…など

4. 日本の特徴

- ・バランス感覚（例：三方よし）
- ・先端技術の社会受容
- ・新たなものを受け入れての編集能力
- ・均質性（抜本的な見直しが必要）

…など

5. 将来の「仕組み」に向けた検討課題

目指すべき社会の姿

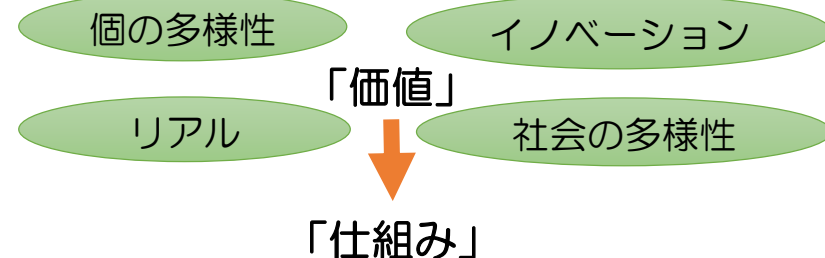
＝「価値デザイン社会」

2. 予測される将来の社会像

- ・AI・デジタルの進展→「リアル」の価値向上
- ・生き方・働き方の多様性・選択肢の拡大
- ・会社など組織への所属の柔軟化
- ・幸せの多様化、新しい価値感（シェア、貢献）

…など

3. 将来における「価値」と それを生む「仕組み」



- 多様な個性を生みだす仕組み
- 多様な個人が活躍する環境整備
- 知識のプラットフォーム化
- 多様な価値を内包する社会システム

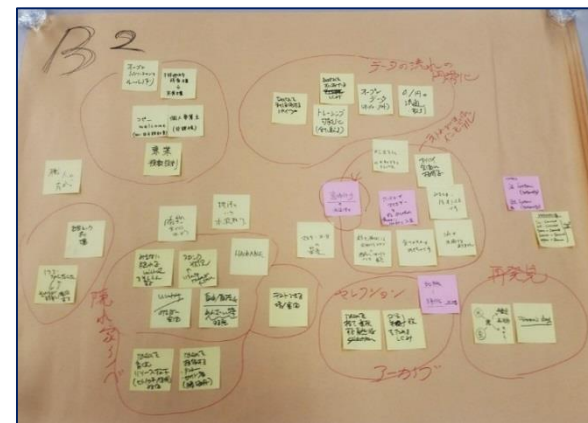
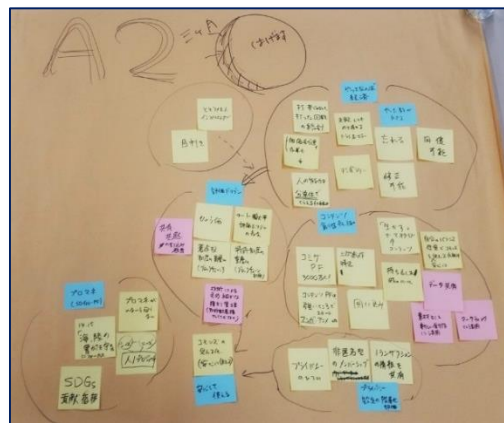
知的財産戦略ビジョンの検討の進め方

参考

委員をグループに分け、ポストイットを利用して討議し、全体で発表・議論する

「グループディスカッション形式」を採用し、「チャタムハウスルール」(*)の下、活発な議論を行った

(※)会議における発言を引用する場合は発言者が特定されないようにするというルールを参加者間で共有し、自由闊達な議論を確保。



(1)現在の兆候から予測される将来の社会像

1. 価値観・社会状況

- 「供給」能力が「需要」を上回り、イノベーションモデルがリニア型から複雑系に変化
- 消費者需要がモノからコトへ。SNSでの「いいね！」(共感)の欲求。シェアリングエコノミーの拡大。「豊かさ」を図る経済指標の模索。
- 生活や人間関係がバーチャルな空間へ拡大
- 組織中心から個人としての社会参画へ

2. 新技術の進展と浸透

- ビッグデータ、AI、ブロックチェーン、量子コンピューティング、ゲノム編集等の新技術や、サイバー空間とリアル空間との融合によるイノベーションの加速と産業の変容(異業種結合・顧客ニーズの取り込み)
- 発案から実現までの過程・時間が短くなり、個人がクリエイターやサプライヤーに。プロダクトライフサイクル短期化とデザイン思考の重要性
- 諸外国に比べて我が国の科学技術力や人材集積力の相対的低下

3. 国際関係における環境変化

- 米中やグローバルなプラットフォーム企業の存在感、地域主義的傾向の強まり
- 世界的にSDGsの本格的な取組が始まり、長期的な社会の持続性と経済の両立へ。高齢化・成熟社会への課題。
- 日本的な考え方が評価される傾向や訪日外国人の急増など、経済以外の観点での我が国の影響力保持の可能性

将来の社会像



人



産業



社会

- 各個人が多彩な能力を最大限発揮し、多様な仕事を持つ。再チャレンジが可能。
- リアル(非デジタル)や、多様性と選択の自由度の価値向上。人が多様な個性を発揮しながら交流することにより、価値を創造
- 「幸せ」の多様化と「生きている実感」の訴求。共感や信用など金銭以外の価値の評価。

- データ活用による生産性の劇的改善。「夢」×「技術」×「デザイン」で新たな市場を開拓。実用化・市場投入までのスピード感とトライ&エラー。
- 消費者ニーズに対応するためのオープンイノベーションの深化。量での競争ではなく、価値や文化の活用が国際競争の鍵へ。
- ビジネスモデルや技術は、独占から利用へ、保有からアクセスへ。多様なプレイヤー・ユーザーが交流する「場」(プラットフォーム)の形成。

- 国・組織の境界が柔軟化。従来の境界を前提とした仕組みやルール of 調整・再構築の必要性。
- 国家に匹敵する規模のプラットフォーム型企業の出現。政府と多国籍企業が共働した社会課題への取組の必要性。
- 「互学互修」の機会増大。大学や学びの場は、人材が集積しアイデア交換・創発・実験のプラットフォームへ。
- 知的資産は「所有」から「シェア」(共有・共働)の仕組みの拡大により高付加価値化

- ✓ 科学技術の進歩は、効率性を高め、人々の生活をより豊かにするものと考えられる一方、疎外感・不安感の発生、帰属欲求の拡大、社会階層の固定化・格差拡大、都市と地方の分断などを起こす可能性。
- ✓ この相反性を認識しつつ、より多くの人がそれぞれに幸せを感じる未来を主体的に作ろうとする姿勢が重要

(2) 将来における「価値」とそれを生む仕組み

望ましい社会を作るための「価値」とそれを生む仕組み

個の多面性・多様性

- 多様性による種の存続の担保
- 自分がやりたいことをやれる
- 多様性と専門性の組み合わせから重要な価値が生じる

リアル

- 人間らしさ、「自然化」、体感や体得への価値
- 歴史、伝統
- プライバシーの確保
- 偽物ではないという信頼感

イノベーション・創発

- 情報財を利活用した新しい価値創出
- 新結合、融合、昇華、つながり
- デザイン力
- 既存のルールやタブーの超越
- 変化を実現するスピード

社会の多様性の許容

- 非GDPの価値（共感、信用、貢献等）
- 安全、安心
- 非中央、分散
- 資源集中や格差の是正（再分配）

ミクロ

マクロ

多様な個性を生みだす仕組み

- 自主性や好奇心を涵養し、リソースを組み合わせ、国内外に課題を定義し、行動できる人材
- 他者との違いを生み出す力や、多様性を受容するための感性、コミュニケーション力
- 「リアル」「生」の経験の提供、記憶・体験等のコンテンツデータベースや、五感体験アーカイブ
- 学びのモジュール化と選択・アクセスの拡大
- アイデアを結合し、協働するための大学のプラットフォーム化

多様な個人が活躍する環境整備

- 一人の人間が持つ多様性・能力を引き出し、その細分化された時間・アイデア・生産性を相対評価しつつ、それらをマッチング
- 多様な選択肢と選択の自由の確保
- 協働のため、個人が自由に移動できるパーソナルモビリティ、移動の高速化などの新交通システム
- 再チャレンジが可能な仕組みや環境整備

知識のプラットフォーム化

- データ・AIを含む知的資産をシェアし利活用することで新たな価値を生み、知的資産の価値自体も向上させるシステム
- データ分析、メタ化による新しい価値源泉の発見
- 人のネットワーク、産業のサプライチェーンなどあらゆる場面における情報を媒介としたエコシステム
- SDGsの枠組みの中での融合促進と新たな価値の発信

多様な価値を包摂する社会システム

- 幸福度の新たな指標を開発し、経済社会システムを高度化
- 多様な個人を包摂し、統合的に社会を運用する仕組み
- 様々なシステムの実験的導入、複数の選択肢の中での競争を促す仕組み
- 異質・外部のものとの共存・融合のため、外国人材の受入れや突然変異の可能性を高めるシステム（例：e-Residency）
- 地域ごとに保有する資産を活用し、ライフスタイルを提供

日本の特徴を活用して価値をデザイン・発信

極端な一方に触れないバランス感覚

「三方よし」に現れるような利益追求と他者還元の時達成、持続性重視

非中央集権的志向、共同体意識、（後援を含む）共助

自然との「共生」の思想

（倫理・思想・慣習面における）
ドグマや禁忌の少なさ

特に表現の自由や科学技術の受容

社会的逸脱にはならない内在的バランス

非英雄や未熟さを受け入れる視点

労働を「苦役」より「生産」「貢献」とする捉え方

継続的に改良・改善に向かう真面目さ・器用さ・職人性、「道」の追求

新たなものを受け入れ、独自の観点で解釈しなおす編集能力

歴史、伝統の存在

富裕層のみならず庶民も豊富な文化活動を需要・享受

非言語的感覚、「余白（間）」、「アソビ」「単純化（デフォルメ）」の尊重

均質性

少子高齢化

専門調査会における委員意見: キーワードと今後の方向性

	今後の方向性についての委員意見		今後の方向性についての委員意見
1. 脱平均	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合うコミュニティに(複数)所属できるようにし、税もそのコミュニティ内で使えるようにする ・異能の持ち主(いわば「狂った人」)を受け入れ、異能の求心力を持つ ・「常識」から外れたシナリオを沢山描く、それを奨励する ・尖った人のパトロン、ガイド、メンターを増やす ・外国人に日本を伝えるアンバサダーは、外の考えを取り込むプロモータにもなる 	4. ドリフの信用経済、評価の貢献の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の評価関数で評価できないもの(アート)を生み出す。その価値評価関数を見出す ・どれだけ人のためになったかを評価のベースにする ・SDGsを活用した価値指標やSDGs関連のプラットフォームを作り、シーズとニーズを結びつけるプロジェクトマネージャーのデザイン力でビジネス化。プラットフォーム参加者のSDGs達成への貢献をポイント化して公表
2. 異能が集まりアイデアが湧く「スカンク状態」	<ul style="list-style-type: none"> ・独自路線の「ミニガラパゴス」になることを敢えて恐れない ・アイデアをどんどん生んで取捨選択。使わなかったアイデアは「肥溜め」的な場に保管していつでも使えるようにし、新しいアイデアの温床にする ・国全体としてミステリアスな要素を失わない ・訳が分からないものが沢山ある状態を保つ(それが将来価値を生む) ・プライバシーを重層化し(誰に対してどの程度オープンにするかを選択)、参加者限定で思い切ったことができる場を作る ・「知と異能の3原則プラス1」(アイデアを持つ、作る、外から持ち込む+使う)を実践 ・排他的所有権を緩やかにし、様々な法律上の権利に共有権を設定 ・データを吸い上げる一定の仕組み、それを利活用するパイプやアイデアをテストできる場・空間を作る 	5. 活用エコシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・自律分散型で、クリエイター個人が中心のコンテンツ創造、活用、二次利用、分配のプラットフォーム、エコシステムを作る ・ブロックチェーン技術により創作プロセスにおいて誰が何に参与したかを明確化 ・著作物の自由な利用と創作に参与した人への分配 ・金銭的対価のみならず「ファン」からの評価をベースにしてインセンティブを作る
3. やってなんぼ経済	<ul style="list-style-type: none"> ・個々人が多くの役割を務め、色々なことをする。 ・アクティブ・フルムーン(人間の時間の全方位的活用。特に高齢者の時間と潜在能力を色々な形で発揮。) ・打率ではなく、沢山打席に立ち、ヒット&アウェイの精神でチャレンジすることを奨励 ・トライ & エラーでよくしていく。その前提でシステム作りに修正や忘却を織り込む 	6. 手入れが行き届いた「インモラル」	<ul style="list-style-type: none"> ・規制など制度に適度な余白を用意する ・可視化されずに発展する「隠れ家イノベーション」に免罪符を与える(特区など) ・過度な「コンプライアンス」でがんじがらめにならない ・ある程度セキュア(悪いことができないギリギリの状態)なら何をやってもよいという感覚を大事にする ・限定的・画一的なドグマに陥らず、しかしバランスは取る、いわば集団的モラルを育成する
		7. 新陳代謝	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップを生み出し、また新たな産業の発展を妨げる規制を撤廃して産業の新陳代謝を進める ・成長時代の国のあり方は維持できないので「成長的撤退」をしなければならない ・ほぼすべての革新は若者が実現(明治維新、戦後の急成長、シリコンバレーの新興企業)

(3) 目指すべき「ビジョン」と今後の検討方向性

「価値デザイン社会」への挑戦 ～ 夢×技術×デザイン=未来 ～

－ 価値デザイン社会 －

経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得る

①脱・平均とチャレンジ

尖った人、チャレンジする人や組織が我が国から生まれるとともに、世界から集まる

②分散と融合

個人が有する複数の能力・アイデアを、プラットフォームを通じて他人の能力・アイデアと適切に組み合わせ、新しい価値を生む

③共感・貢献経済

日本の社会、文化、方向性に共感を持つ海外の理解者、「ファン」を積極的に受け入れる

個々の主体の強化

組み合わせの仕組み

国全体のブランド化

①新たな価値創造を行える人材の育成

②価値メカニズムの見える化とそれを活かした組織経営

③多様な価値が見える化、評価するシステムや指標作り

④多様な価値を満たす事業にチャレンジするベンチャーを後押しする仕組み

⑤多様な人材・組織が集う場の形成

⑥SDGs等実現のための知的資産プラットフォーム

⑦次世代のコンテンツ創造・活用システムの構築

⑧クールジャパンの魅力分析・効果的発信

⑨クールジャパンを支える外国人等の集積・活用

⑩デジタルアーカイブの構築

ビジョン実現のためのシステム例① ナレッジプラットフォーム for SDGs

(SDGs等実現のための知的資産プラットフォームの一例)

＜インセンティブ施策＞
SDGsプラットフォーム
への貢献をポイント化

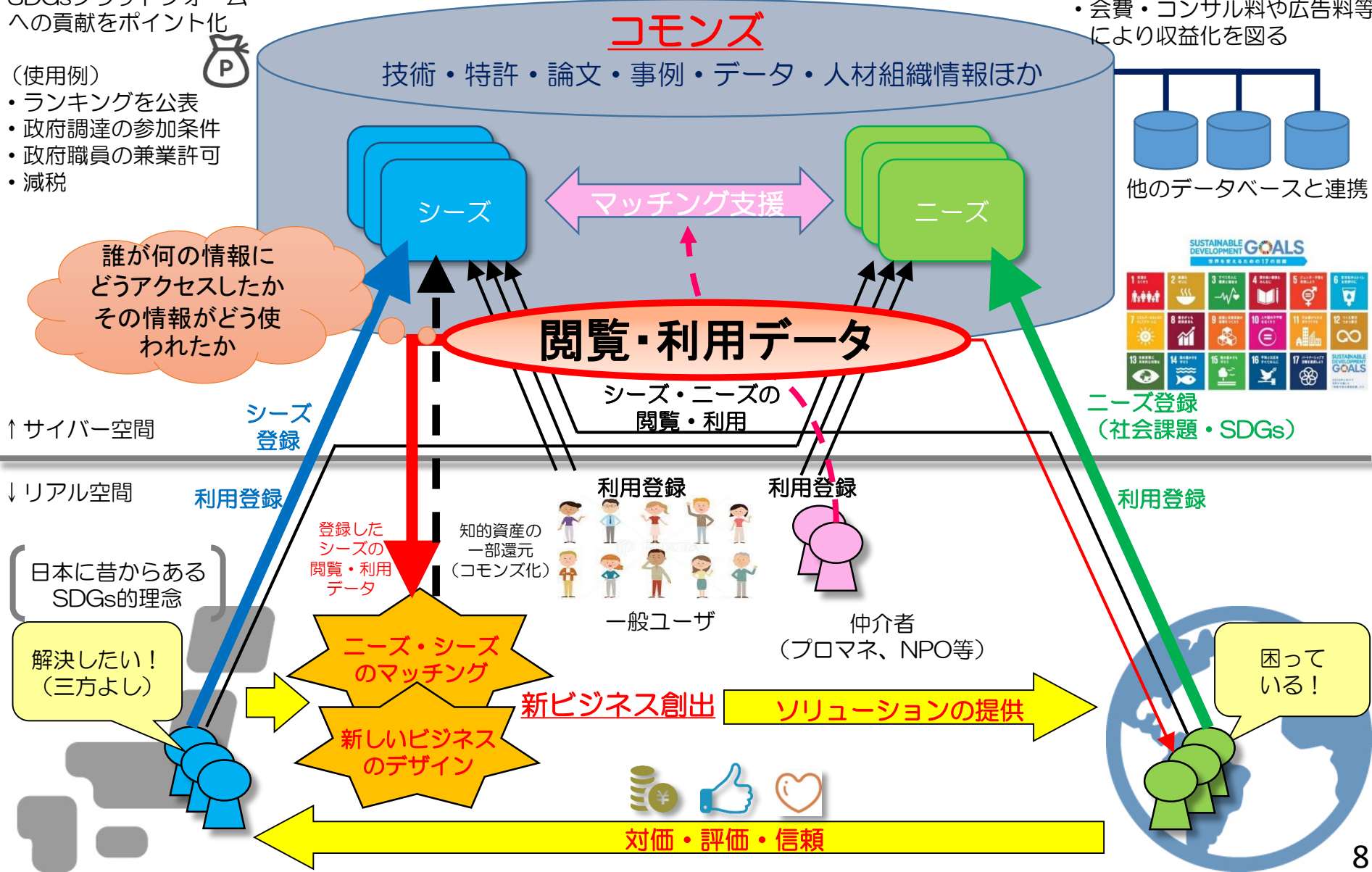


- (使用例)
- ・ランキングを公表
 - ・政府調達に参加条件
 - ・政府職員の兼業許可
 - ・減税

SDGsに関する先行的なデータプラット
フォームとして世界からの情報を集積

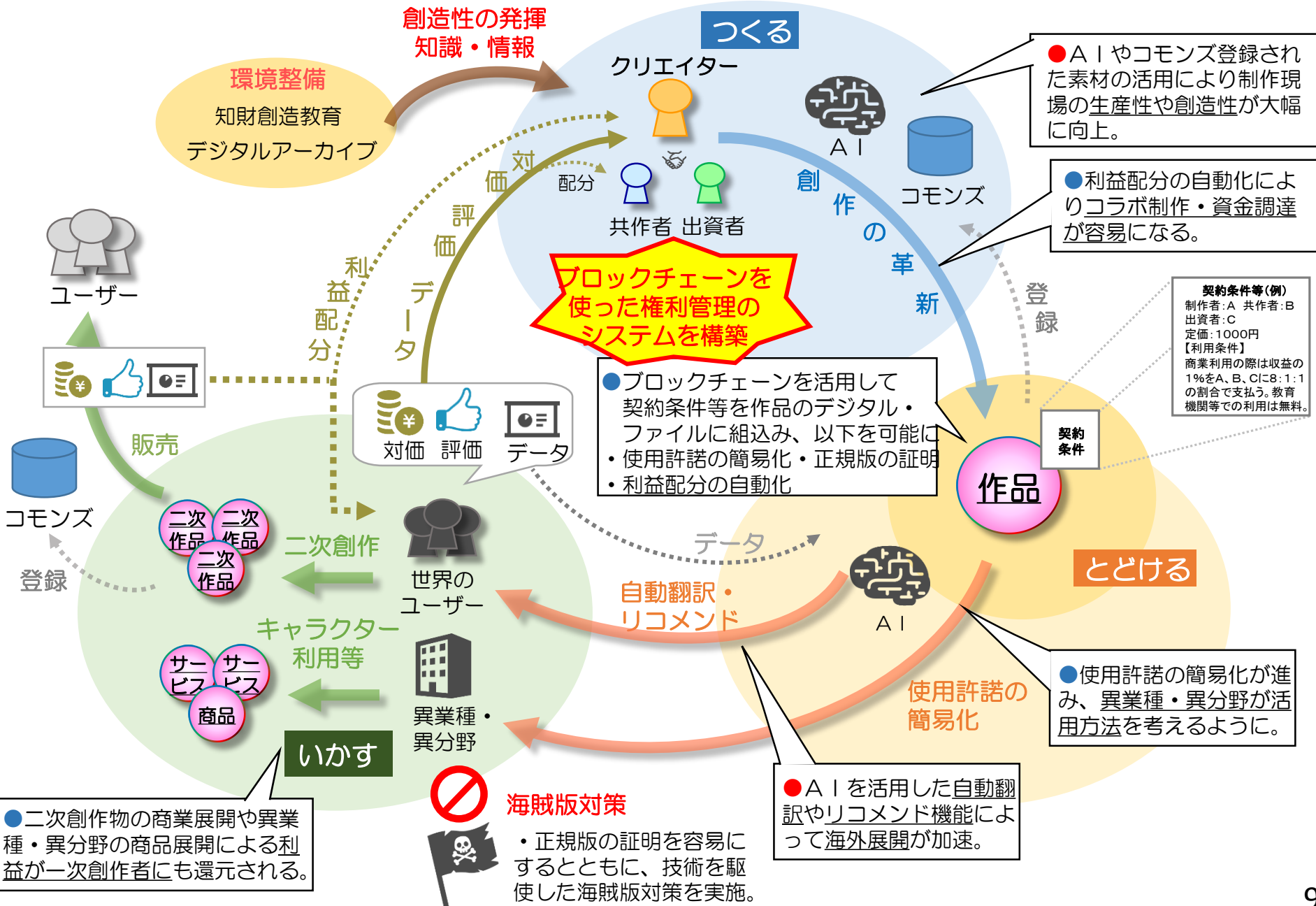
＜運営者＞

- ・民間主導による自由な運営
- ・会費・コンサル料や広告料等
により収益化を図る



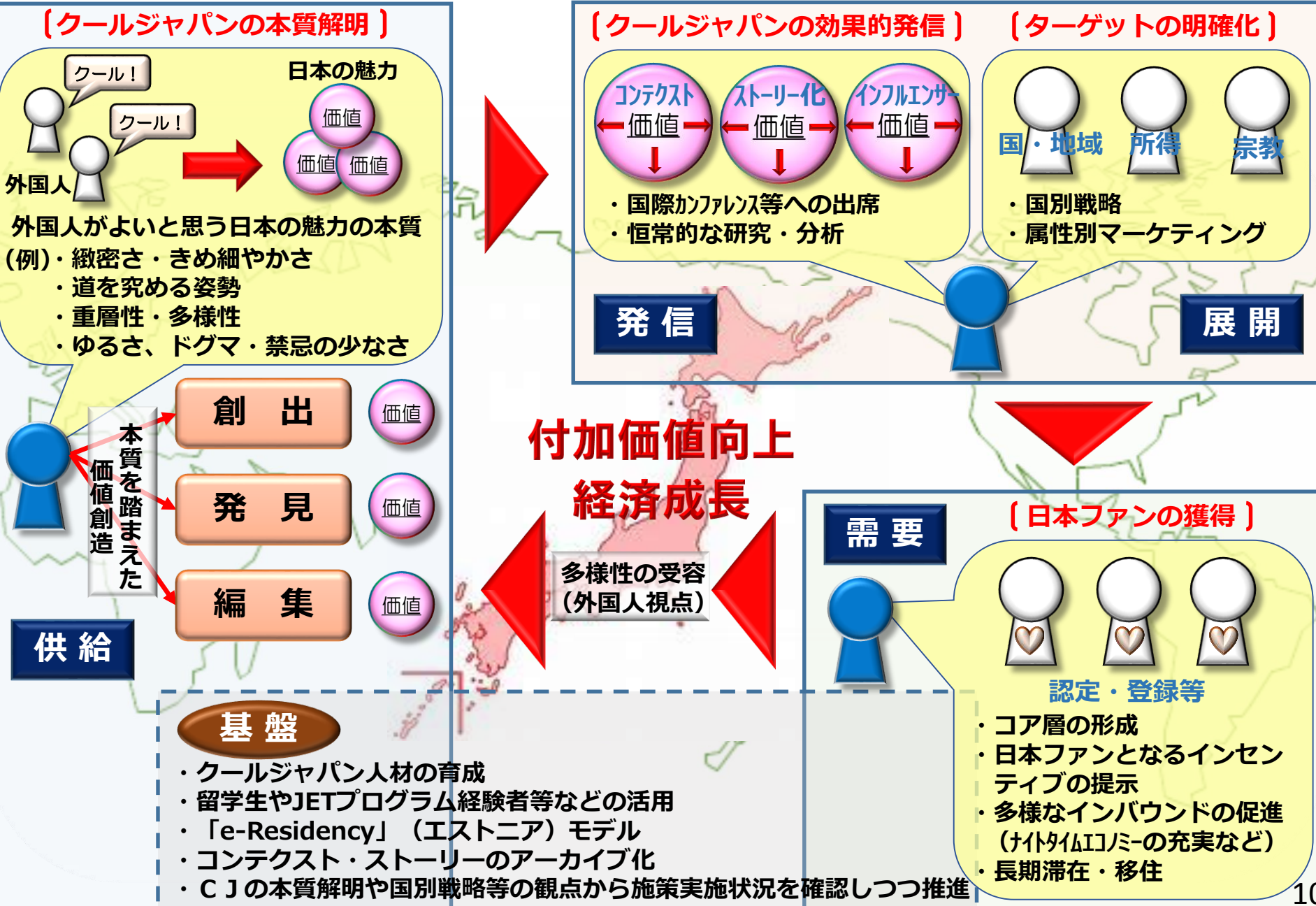
ビジョン実現のためのシステム例② 次世代のコンテンツ創造・活用システムの構築

(ブロックチェーン[分散台帳技術]、AI等新技術の活用)



ビジョン実現のためのシステム例③ クールジャパンの再生産

(クールジャパンの本質解明を起点に持続的成長戦略へ)



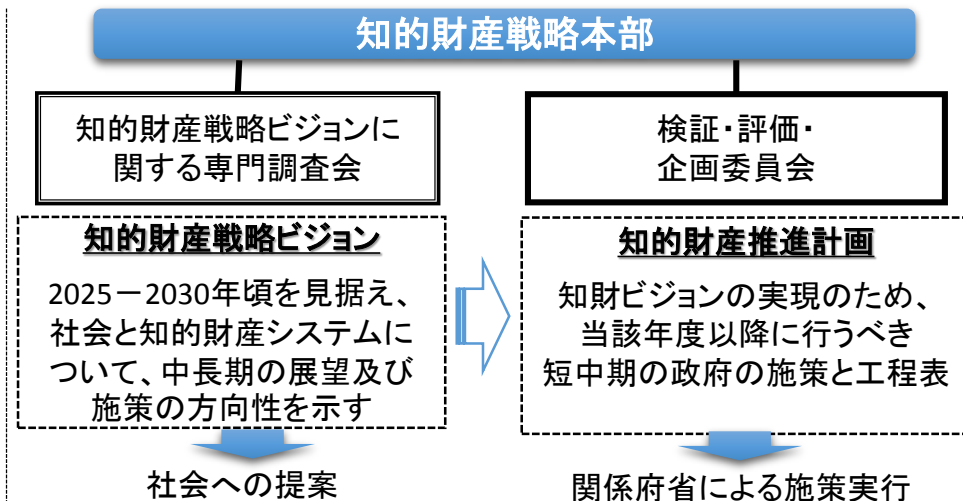
知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会について

参考

- 知的財産戦略ビジョンは、2025～2030年頃を見据え、社会と価値の生みだし方、それを支える知財システムについて中長期の展望及び施策の方向性を示し、毎年の「知的財産推進計画」の大目標として策定。
- ビジョンの考え方を発信・共有して実践や意識改革を促すとともに、未来についての自由で幅広い議論を続け、ビジョンの有効性を検証。

知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会 構成員 ※敬称略

氏名	所属
安宅 和人	ヤフー株式会社CSO
池田 祥護	学校法人新潟総合学院理事長／日本青年会議所2018年度会頭
梅澤 高明	ATカーニー 日本法人会長
落合 陽一	筑波大学学長補佐・准教授
富山 和彦	株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO
川上 量生	カドカワ(株)代表取締役社長
妹尾 堅一郎	産学連携推進機構 理事長
中村 伊知哉	慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
日覺 昭廣	東レ(株) 代表取締役社長 日本経済団体連合会知的財産委員長
林 千晶	株式会社ロフトワーク 共同創業者、代表取締役
原山 優子	前 総合科学技術・イノベーション会議 議員
渡部 俊也	東京大学政策ビジョン研究センター 教授



- 第1回専門調査会合 2017年12月26日
 - ・未来の社会像について
- 第2回専門調査会合 2018年2月2日
 - ・未来の社会像における「価値」とそれを実現するための「仕組み」について
- 第3回専門調査会合 2018年3月1日
 - ・クールジャパン戦略による日本ブランドの強化について
 - ・将来の知的資産システムの在り方について
- 第4回専門調査会合 2018年3月23日
 - ・知的財産戦略ビジョンの実現のための全体的な枠組及び個別システムについて
- 第5回専門調査会合 2018年4月20日
 - ・「知的財産戦略ビジョン」素案について
- 第6回専門調査会合 2018年4月25日
 - ・「知的財産戦略ビジョン」素案及び今後の進め方について